

三中版「学びの変革」アクションプラン全体図

今の中学生が生きて働いていく社会

知識基盤社会

- グローバル化
- 競争と技術革新
- パラダイムの転換
- 性別や年齢を問わず参画

少子高齢化

- 2045年（中学生40歳台）には、人口9,200万人
- 2065年（60歳台）には、人口5,300万人・65歳以上の老年人口が41.1%

AI・ロボット化

- 10年～20年後には23種類の職業が代替可能
- この職業の従事者現在約2500万人。日本で働いている人の49%（NRI予想）

三中の財産

ピア・サポート

- ピアとは、「仲間」、サポートとは、「支援する」
- 「お互いに支えあって課題を解決していく」という活動を「ピア・サポート活動」という
- 互いにサポートし合うことで、「ともに高め合う」関係を作っていく

- 大量生産大量消費社会から持続可能社会へのパラダイムシフト
- 人工知能やロボット等による代替可能性が高い100種の職業と代替可能性が低い100種の職業（NRI）
→ **知識創生のための力と人間力の育成**

【育成を目指す資質・能力】

学 力
ス キル
意 欲・ 態 度
価 値 観

将来に通用する基礎学力
課題発見・解決力、人間関係形成能力
チャレンジ精神、忍耐力（耐える力、レジリエンス）
人としての思いやり

「主体的な学び」の創造

- 学習者基点の学び
- 能動的な学び
- 深い学び

キャリア学習
ピア・サポート
を中核として

○校内研修・研究授業及び公開研究会の実施（H29 全教科・特別な教科 道徳）

○授業評価表の作成（授業参観の視点を明記したもの）

○単元開発及び年間指導計画の作成（H29 全教科）○それ以外（H30）

○カリキュラムマップ（育成を目指す資質・能力について、教科等の関係性を明記した表）の作成

○全体の系統表（育成を目指す資質・能力の一つ一つについて、発達段階に応じた目指す生徒の具体的な姿を明記した表）の作成及び各教科・総合的な学習の時間の系統表の作成（H29）○それ以外（H30）

各教科

特別な教科
道徳

特別活動

総合的な
学習の時間

その他の活動
部活動
ボランティア等

【カリキュラムマネジメント】

- 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していく。
- 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立する。
- 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせる。

【現教育課程の課題】

- 各教科等において「教員が何を教えるか」という観点を中心に組み立てられており、教科等の枠組みごとに知識や技能の内容に沿って順序立てて整理したものとなっている。
- 指導の目的が「何を知っているか」にとどまりがちであり知っていることを活用して「何ができるようになるか」にまで発展していない。
(平成28年12月21日 中教審答申)